

BRAIN



DESIGN
COPY
CM
WEB



60周年特別企画・
コミュニケーションの
革命児たち

広告の現場を支える
プロフェッショナルの
仕事術

ブレン

5

MAY 2014 VOL.646

2014年7月1日発行 毎月1回1日発行 平成26年7月24日 第三種郵便物認可 通巻646号



01



企業×未来研究所＝手触り感のある未来 ifs未来研究所

10年くらい先の ライフスタイルを研究する

100年先のはるかな未来ではなく、10年くらい先の「今日という日常の延長線上」にある未来について考えたい——ジャーナリストの川島蓉子さんが昨年立ち上げた「ifs未来研究所（未来研）」は、プロダクトやファッション、建築などさまざまなジャンルのクリエイターが集まり、ジャンル横断的にこれからの暮らしについて研究活動を行ったり、企業やブランドの未来と一緒に設計していく場所だ。

今年の研究テーマは「不便だけど快適なもの」。世の中には「便利だけど不快なものが多い」という問題意識が、その出発点。つつつと手触りのない便利な大量生産品よりも、確かな手触りやぬくもりある不便なものを便利に変えることで「便利で快適なもの」を世の中に増やしていこうと考えた。メンバーは月に1回の定例会で顔を合

わせ、おのおので進めた研究の成果を発表する。それぞれ自分の専門外の分野を研究してくるのが面白いという。「ジャンルは違っても、ポジティブで何でも『どうやったらできるだろう』と考える人が集まっています。自分の専門にとらわれずに考えられることで、この時代に生きる責任として何を作るべきか、いま一度立ち返って考えるチャンスをもりました」とメンバーの一人である建築家の田根剛さんは話す。

今春には、東京・外苑前のいちょう並木のそばにショップ兼未来研の事務所となる「WORK WORK SHOP」を年内限定オープンする。ルミネやコクヨファニチャー、金沢の酒蔵福光屋、「RF1」などの惣菜店を展開するロック・フィールドが相乗りしてスペースをシェアすることが決まっている。各社は新しいワークスペースの提案やオリジナルメニューの開発・提供など、ときに入居企業同士でコラボしながら、実験

的なサービスを提供していく予定だ。「次々と参加を希望する企業が現れて驚きました」と川島さん。のびのびと新しいことに取り組める風通しのいい場所を、実は多くの企業が求めている。そんな企業の背中をぼんと押し、新しいことを孵化させていく。未来研はきっとそんな存在になっていくのだろう。



02

01 「WORK WORK SHOP」の店舗予定地にて。左から、伊藤忠ファッションシステムの佐藤香澄さん、プロダクトデザイナーの酒井俊彦さん、SOMA DESIGN 廣川玉枝さん、所長の川島蓉子さん、SOMA DESIGN 福井武さん、建築家田根剛さん、ジャーナリストの林信行さん。

02 「WORK WORK SHOP」模型。空間および制作物のアートディレクションは柿木原政広さんが担当。

*次々号より、連載「WORK WORK SHOPのつくり方（仮）」が始まります。